

社会に開かれた教育 SDGs実践プログラム

そらの郷は、ローカルSDGsの実践現場として、地域ESD活動推進拠点に登録されています。そらの郷のSDGs実践プログラムは、全て、ターゲットNo.4.7「持続可能な開発のための教育（ESD）」に軸足を置いた上で、17項目を実践するプログラムとなります。

ESDは、Education for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。現在、世界には、環境・貧困・人権・平和・開発といった様々な地球規模の課題があります。

ESDとは、地球に存在する人間を含めた命ある生物が、遠い未来までその営みを続けていくために、これらの課題を自らの問題として捉え、1人ひとりが自分にできることを考え、実践していくこと（think globally, act locally）を身につけ、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。



そらの郷





家業体験プログラム



【急傾斜地での伝統農法の体験】

ススキ(茅)を、斜面の畑に敷き、肥料としても使う植物資源の循環農法。農業、肥料を使わず、地球環境負荷の少ない持続可能な社会を千年以上も続けてきました。



自然と共生し、時に厳しい自然と対峙する、山の暮らしの知恵を家人との交流で継承すべき暮らしを学びます。



世界農業遺産認定の傾斜地農法で環境対応型の「生きる知恵」を学ぶ



自然界からのプレゼント「八合霧(雲海)」



伝統的な和食を「共同調理」で体感し持続可能性について考える

ソバ・アワ・ヒエ・キビ など
在来・固有種を保存するシステム

「食」を作り生命をいただくことを感じる



ススキを乾かしコエ(肥料)にする知恵。天然資源の循環農法。



そらの郷山里物語 入村～離村式までの基本行程表【参考】

初日		
時間	内容	裏側(一部)
10:00 ~	各会場へ到着・集合	
10:10 ~	入村式(自己紹介)	
10:30 ~	各家庭へ移動	
11:00 ~	家庭到着、各説明(緊急避難経路等)	
12:20 ~	昼食づくり体験	
13:00 ~	昼食・団楽(ミーティング)	
14:30 ~	家業体験 ※参考表参照	
16:00 ~	反省会(意見交換)	○農具手入れ ○お風呂準備
16:30 ~	休憩・コミュニケーション	・蒔き割り
17:00 ~	夕食づくり体験	・蒔き運び ・風呂焚き
18:00 ~	夕食・団楽(1日の振り返り/明日の予定)	・湯加減
19:30 ~	阿波おどり練習	○翌日の準備 など
20:30 ~	入浴	○洗濯
~	民泊体験(就寝)	○星空体験

2日目		
時間	内容	裏側
6:30 ~	起床	○八合霧(雲海)体験 ○洗濯
6:30 ~	朝食づくり体験	・取込み
7:30 ~	朝食・団楽(ミーティング)	・たたむ
8:30 ~	家業体験 ※参考表参照	○お茶準備
10:00 ~	ティータイム・反省会(意見交換)	○農具手入れ
10:30 ~	阿波おどり練習	
11:00 ~	昼食づくり体験	
12:00 ~	昼食・団楽(全日程の振り返り)	
13:30 ~	帰省準備	
14:00 ~	移動	
14:30 ~	各会場へ到着・集合	
14:40 ~	離村式	
15:00 ~	阿波おどりフィナーレ(全員参加)	
~	お見送り	

民泊家業体験 参考表

月	家業体験内容		
	農作業(収穫・植付け・手入れなど)	その他	通年
4月	いちご、そら豆、えんどう豆、インゲン豆、玉ねぎ、フキ、玉ねぎ等の収穫、たけのご堀、お茶、山菜摘み、雑穀の種まき、イモ類の植え付け	ツチアゲ、流し素麺 干しぜんまい	・阿波おどり ・竹細工 (箸、器、コップなど) ・縄細工 ・かずら細工 ・木工体験 (鉛筆立て)
5月	えんどう豆、そら豆、椎茸、ジャガイモ等の収穫、たけのご堀、山菜摘み、田植え、ひまわりの種まき トマト収穫・支柱建て・芽取り、梅取り、田起こし、ラッキョウ堀・洗って漬ける、茶摘み コンニャクイモ、トウモロコシの定植、トウモロコシの柵作り	ツチアゲ、流し素麺、虫見学、花火、川遊び(水切り)、谷遊び、梅干し作り	・小物作り (写真立て、鍋敷き、ティッシュケース) ・巾着作り ・お手玉作り
6月	ピロ、スナックえんどう、イチジク等の収穫 玉ねぎ収穫・吊るし、トマト収穫・定植・芽取り、梅取り、ジャガイモ堀り・花摘み、たけのご堀、田植え、甘夏もぎ、山菜摘み、薬草摘み、ラッキョウ堀・洗って漬ける	虫見学、花火、川遊び(水切り)、谷遊び、流し素麺、梅干し作り	・折り紙(箸袋) ・着物着付け体験 ・うどん打ち体験 ・そば打ち体験
7月	トマト、きゅうり、ピーマン、なす、とうもろこし、かぼちゃ、スイカ、枝豆、インゲン豆、大根、唐辛子、ゴーヤ、オクラ、冬瓜等の収穫、山菜摘み そば・人参の種まき、ラッキョウ堀・洗って漬ける	花火、川遊び(水切り)、谷遊び、流し素麺、梅干し作り、らっきょう漬作り	・そばの粉引き ・釜炊飯作業 ・ひらら焼 ・郷土料理実習 ・田舎団子作り
8月	トマト、きゅうり、ピーマン、なす、とうもろこし、かぼちゃ、スイカ、枝豆、インゲン豆、唐辛子、紫蘇、オクラ、みょうが等の収穫 水菜、キャベツ、ニンジン、玉ねぎ、ジャガイモ、カブ、大根、そば等の種まき	花火、川遊び(水切り)、谷遊び、流し素麺 漬物作り体験	・風呂敷体験 ・風呂焚き体験
9月	きゅうり、トマト、ピーマン、なす、カボチャ、みょうが、里芋、しょうが、蓮根、椎茸、蕎麦、柿等の収穫 水菜、春菊、白菜、玉ねぎ、ラッキョウ等の種まき 栗拾い、サツマイモ掘り、稲刈り	ツチアゲ、カヤの刈り取り、焼き芋、紅葉狩り、木の実拾い、漬物作り体験、干し柿・干し芋作り、焼き木づくり	・山散策 ・星空体験 ・やまびこ ・日の出観察
10月	かぼちゃ、大根、カブ、里芋、冬瓜、銀杏、みょうが、蕎麦、柿等の収穫、稲刈り えんどう豆、そら豆、春菊、ホウレンソウ、ニンニク等の種まき 栗拾い、サツマイモ掘り	ツチアゲ、カヤの刈り取り、コエグロづくり、焼き芋、紅葉狩り、木の実拾い、漬物作り体験 干し柿・干し芋作り	・八合霧(雲海)体験 ・ホラ貝吹き ・小学校(跡地)見学 ・肝試し ・石垣美化
11月	里芋、小松菜、春菊、蕎麦等の収穫 アスパラガス、さやえんどう、そら豆、玉ねぎの種まき、サツマイモ掘り	ツチアゲ、カヤの刈り取り、コエグロづくり、焼き芋、紅葉狩り、木の実拾い、漬物作り体験 干し柿・干し芋作り	・集落奉仕作業 (神社・お寺、集会所 他) など
12月	大根、水菜、小松菜の収穫、畑の土作り	雪かき、かまくら体験 漬物作り体験、切干大根作り	
1月	長ネギ、芽キャベツ、白菜の収穫 農業用ビニール張り、手入れ	雪かき、かまくら体験 漬物作り体験、切干大根作り	
2月	小松菜、ホウレンソウ等の収穫 農業用ビニール張り、手入れ	雪かき、かまくら体験 漬物作り体験、切干大根作り	
3月	雑穀の種まき、ねぎ、アスパラなど 種まき・苗付け、イモ類の植え付け、キャベツ、ニンジン、ホウレンソウ等の収穫	ツチアゲ、雪かき、かまくら体験 漬物作り体験	

※各家庭によって所要時間や内容等に違いがあります。

※家業体験内容は各家庭ごとに異なります。

にし阿波 そらの郷の郷土食



- ・民泊時の食事は、季節ごとに採れる新鮮な野菜を使った、汁物、煮物、和え物、酢の物が基本です。
- ・メニューは民泊先で日常的に食している郷土食や田舎料理です。
- ・食材は地産地消で、受入家庭に自家栽培の野菜があれば、それを収穫することからはじめます。
- ・受入家庭のお父さん、お母さんと話しながら、みんなで調理し、食卓を囲み、この地域の食文化を学んでください。
- ・もちろん片付けもみんなでいっしょに行います。



季節の野菜を中心とした
1汁3菜の食事例

ごはんもの・めん類等						
汁物						
主菜・副菜						

山の恵みと川の恵 いただく生命と生きる力



標高1,955m、四国の尾根と呼ばれ、山頂付近には「行場」と呼ばれる修行用の難所があり、山岳信仰の対象とされている



雄大な流れは、下流域の豊かな土壌を形成し、豊富な水量は物資を運ぶ経路として、にし阿波の歴史文化を育ててきた

にし阿波は、四国の中央部に位置し、古来から剣山・吉野川を中心とした歴史、文化、交流、信仰などで密接な関係があり、雑穀、そば、いもを中心とした「食文化」が今も息づく、一体性のあるエリアです。

○食文化の特徴

山間部の急傾斜地では、水田をつくることができず、数少ない平地部分も全国有数の暴れ川、吉野川の洪水被害を受けてしまうため、稲作が困難な地域でした。そのため、在来種のそばや雑穀、自生種の「山茶」、在来野菜等の少量多品目栽培が継承されてきました。また、寒暖差の大きさ、剣山おろしとも命名される冬の寒風を利用し、秋から冬場にかけて穀物・野菜・果樹類を干して乾燥させた保存食文化が根付いており、切干大根、干し芋、干しズキ、トウガラシ、干し柿、干しイチヂク等が多彩な料理に利用されています。



○年中行事と郷土料理

月	行事	伝統的な食材を用いた郷土料理
1月	正月	雑穀餅の雑煮、そば米雑炊
2月	節分	そば切り、黒豆こんにやく煮つけ
3月	桃の節句、彼岸	季節野菜の巻き寿司、いもの粉団子、ぼたもち
4月	浜節句、雑祭り、花祭り	ゼンマイ・フキの煮つけ、山菜の天ぷら、ワラビの卵とじ
5月	端午の節句	切り干し大根の汁、赤飯、ちらし寿司
6月	田植え	ゴウシュイモの煮つけ、ウリの和え物、きやらぶき
7月	夏祭り、七夕、虫祈禱	きゅうりの辛子漬け、いり豆、ゴウシュイモの味噌炒め
8月	お盆	ユウゴのそうめん汁、ズイキ和え、ゴウシュイモの田楽
9月	栗節句、彼岸	おはぎ、雑穀餅、栗赤飯、りいきいも(サツマイモ)、まいも(サトイモ)
10月	秋祭り	赤飯、ズイキのぬた和え、煮つけの串刺し、サツマイモの天ぷら
11月	おいのこさん(豊作祈願)	そば切り、いのこ寿司、芋団子、里芋の煮しめ、大根の煮しめ
12月	冬至、大晦日	かぼちゃの煮つけ、ゆず味噌、でこまわし、そば米雑炊、そば切り

世界に誇る日本の伝統芸能 原点はここにあり

日本三大盆踊り
持続可能な伝統芸能を
実体験し探究する！

そらの郷では、集落の賑わいとして、念仏踊・風流踊の「阿波おどり」が継承されてきました。急傾斜地農耕の作業疲れや、ストレス社会の憂さ晴らしとして、いつの時代も庶民による庶民の為の、最高の娯楽として継承されてきた そらの郷の「民泊阿波おどり」。持続可能な伝統芸能をテーマに、未来の阿波おどりについて、原点から探究します。

離村式では輪踊りで再開を誓い門出を祝います。



【離村式】民泊阿波おどり（輪踊）



そらの郷の「阿波おどり」は

農と商の財産。

そらの郷では、毎年8月14~16に、本場徳島ベスト3に入る阿波おどり大会「いけだ阿波おどり」が開催されています。



【地元連指導型】阿波おどり体験（土日限定）



【民泊家庭訪問型】阿波おどり体験



設定人数：10～40人／会場

プログラム名		会場	実践内容①	所要時間 (目安)	実践内容②	SDGs ターゲット
【伝統農法】 急傾斜地 農耕システム 実践プログラム	集落案内	山間集落	斜面地を傾斜のまま農地として活用し、在来品種の雑穀、野菜、果樹、山菜など、多品種の作物を栽培し複合的農業経営を行っている集落。住居や水資源を確保し、傾斜地での暮らしを可能にしている現状を解説します。 (伝統農法、伝統農具などの説明もあり)	0.5～1時間	世界では人口が増加している現代において、人類が利用しにくかった傾斜地を持続可能な食糧生産場所とする、この技術体系を世界と共有する為に、どのような方法があるだろうか？ 集落と共に考察します。	2.4 持続可能な食糧生産システムの確保 4.7 持続可能な開発のための教育 11.4 世界文化遺産保護・保全 15.4 山地生態系の保全  2 飢餓をゼロに  4 質の高い教育をみんなに  11 住み続けられるまちづくりを  15 陸の豊かさも守ろう
	カヤ蒔き	山間集落	急傾斜農地では風雨等により浸食され土壌が流出します。土壌を守るためにコエグロで干したカヤを畑に投入し、流出を抑制し、等高線に沿った畝立てを行い貯水と排水を調整します。	0.5～1時間		
	ツチアゲ	山間集落	カヤ蒔きで調整した土壌でも流出する部分には伝統農具のサラエでツチアゲをして土壌を守ります。 また、畑を深く耕起することで石を砕き、新しい土壌を創り出します。	0.5～1時間		
	コエグロづくり	山間集落	カヤ場と呼ばれる採草地で、育てているススキなどのカヤを刈り取り、束にして、「コエグロ」といわれる円すいの形に組んで乾燥させます。この乾燥させたカヤを刻んで土にすき込んだり、畑にまいたりすることで、土壌流亡の抑制、雑草の抑制、保温と保湿など様々な効果が得られます。	4時間		

設定人数：4～10人／会場

プログラム名	会場	実践内容①	所要時間 (目安)	実践内容②	SDGs ターゲット	
民泊家庭 エシカル農業 実践プログラム	エシカル 農業 (説明)	入離村式 会場等	化学肥料無しの伝統農法と、少量多品目のレジリエンスな農業について、エシカル消費の視点から解説し、今日から取り組めるSDGsについて考察する。	0.5～1時間	民泊家庭滞在中に農家の指導・助言を受けながら実践する。	4.7 持続可能な開発のための教育 12.8 自然と調和したライフスタイル意識醸成 12.b 文化振興・産品販促で持続可能な観光業 4 質の高い教育をみんなに 12 つくる責任 つかう責任  
	少量多品目 農業	全域 民泊家庭	伝統農法に所以する高度な土地利用の応用。各家庭の住環境の中で、大きく土地形状を変えずそのままに農地利用する各家庭ごとの農法を体験・解説します。野菜、穀類など少量多品目を栽培する、各環境に適応した持続可能な農業システムです。	2時間	世界では人口が増加している現代において、人類が利用しにくかった傾斜地を持続可能な食糧生産場所とする、この技術体系を世界と共有する為に、どのような方法があるだろうか？	2.4 持続可能な食糧生産システムの確保 4.7 持続可能な開発のための教育 11.4 世界文化遺産保護・保全 15.4 山地生態系の保全 2 飢餓をゼロに 4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを   
	カヤ蒔き	山間部 民泊家庭	急傾斜農地では風雨等により浸食され土壌が流出します。土壌を守るためにコエグロで干したカヤを畑に投入し、流出を抑制し、等高線に沿った畝立てを行い貯水と排水を調整します。	0.5～1時間	民泊家庭と共に考察する。	15 陸の豊かさも守ろう 
	ツチアゲ	山間部 民泊家庭	カヤ蒔きで調整した土壌でも流出する部分には伝統農具のサラエでツチアゲをして土壌を守ります。 また、畑を深く耕起することで石を砕き、新しい土壌を創り出します。	0.5～1時間		
	コエグロ づくり	山間部 民泊家庭	カヤ場と呼ばれる採草地で、育てているススキなどのカヤを刈り取り、束にして、「コエグロ」といわれる円すいの形に組んで乾燥させます。この乾燥させたカヤを刻んで土にすき込んだり、畑にまいたりすることで、土壌流亡の抑制、雑草の抑制、保温と保湿など様々な効果が得られます。	4時間		



長期休暇など、希望日をご予約ください。

日程：2021年 ○月○日～○日(2泊3日)

『SDGs・キャリア教育プラン』

農家民泊体験 × 企業訪問+α

世界農業遺産の暮らしが継承される「にし阿波・そらの郷」。
真に豊かな暮らしとは何か？ この地で働く、ステキな大人たちと出会いと、
大人の本音やリアルな社会に触れる旅です。
自分らしい未来創造に向け、一歩踏み出すきっかけをつかもう！



①「農家民泊体験」

- ・家業体験 農業を中心とした家業の体験
- ・共同調理 食事は全て共同調理
- ・民泊体験 各家庭の生活リズムで寝食

②「企業訪問」 ※希望の事業所を選択

- ・企業訪問
- ・職場体験
- ・意見交換

③「急傾斜地伝統農法体験」

- ・コエグロづくり

④「その他」 ※希望者のみ

- ・レポート制作 WEBサイト掲載

- 対象：高校生
- 定員：4～5名/班
- 参加費：〇〇, 〇〇〇円



■ 集合場所：一般社団法人そらの郷

徳島県三好市池田町シマ995番地1

■ 集合時間：○月○日(○) 9時



No.	月日	行 程【参考】	食事	宿泊・備考
1		徳島市内 徒歩 そらの郷 9:00 集合 徳島県西部総合会議場 (マリエンテーション レクチャー棟) 10:30 池田・美郷町 M I N D E キッチン (ランチ) 13:00 吉野川ハイウェイオアシス (入村式) (農産体験/夕食 共同調理/宿泊)	朝食: :00 :00	農家民泊
2		事業所訪問実施 民家車 農家民泊 (朝食 共同調理)	朝食: :00 :00	農家民泊
3		民家車 農家民泊 (朝食 共同調理) 14:00 吉野川ハイウェイオアシス (贈付品/振り廻り)	朝食: :00 :00	徳島市内

【説明会 参加申し込み】 ※各校で説明会を実施させていただきます。

お申込事項をご記入の上、次の方法でお申込みください。

■ 担任の先生へ提出 ※お手数ですが、担当の先生から、そらの郷までご連絡ください。

参加者氏名 (フリガナ)	学校名	学年
	自宅TEL	-
生年月日 (保護加入のためにご記入願います。)	当日緊急連絡先	
年 月 日		
住所 (自宅)	参加の理由・期待することなど	
保護者氏名 (フリガナ)	※注意	

※注意：このプランにご参加いただくためには、
保護者の承諾を得る必要があります。



名 称 一般社団法人そらの郷
所 在 地 〒778-0003 徳島県三好市池田町シマ995番地1
代 表 者 理事長 藤田 元治 (美馬市市長)
TEL/Fax 0883-76-0713 / 0883-72-0753
担 当 松浦・福永
旅行業登録番号 徳島県知事登録旅行業第2-148号

SDGs・キャリア教育プランとは？

そのの郷は、ローカルSDGsの実践現場として、ESD（Education for Sustainable Development）推進拠点に登録されています。

ESD人材育成を図る『SDGsキャリア教育プラン』は、真に豊かな暮らしを追求し、そのの郷の地で働くステキな大人たちとの出会いから、大人の本音やリアルな社会に触れる旅です。基本プランは2泊3日で、事前学習、民泊、企業訪問、職場体験、伝統農法体験、事後学習を実施します。オーダーメイドで、カリキュラムマネジメントをいたします。

そのの郷のオンリーワン企業社長との意見交換では、SDGsを掲げる企業フィロソフィーや地域社会におけるパーパスを学ぶことで、VUCAの時代に立ち向かう若者のアントレプレナーシップを醸成します。

また、本プログラムは、キャリア教育だけでなく、SDGs教育への活用が好ましく、ベネフィットは「正解の無い不確実性に挑戦する力」や「サステナブルマインド」の習得などが挙げられます。

そのの郷は、未来社会「Society 5.0」を見据え、革新技术を制御し、グローバルに活躍する「未来を変える若者」の育成を目指しています。



四国・徳島

～持続可能な開発のための教育現場～

Education for Sustainable Development

ESD体験型教育旅行

そらの郷

Project-Based Learning (課題解決型学習)

PBL×STEAMプログラム



私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を実践しています。

ESDの実践現場
修学旅行で実践体験型PBL



古くから受け継ぐ山里の暮らし。人々は共働で畑を作り、高地性集落で「そらの郷」の暮らしを続けています。グローバルSDGsはローカルの実現から。都会と地方の若者が協働する、日本のESD人材育成プログラムです。世界農業遺産を護り限界集落コミュニティの未来社会を共創してください。



世界農業遺産のサステイナブルな伝統耕作を体験。



地元生徒だけでなく、STEAM手話を駆使し
コミュニティの素晴らしい課題解決に向かい合う。

お問い合わせ
一般社団法人そらの郷
☎0883-76-0713

PBLプログラムフロー

①事前学習



- 出前授業 (約60～120分) 講師：そらの郷
 - ・そらの郷の暮らしについて
 - ・そらの郷の取り組みについて
 - ・そらの郷の課題について
 - ・PBLテーマ策定 ※ワークショップ
- 地元高校生とのTV会議 (数回) ※Skype
地元高校生：徳島県立池田高等学校 探究科 他

②民泊 家業体験



- ・各説明 (緊急避難経路等)
- ・夕食づくり体験 ※共同調理
- ・夕食・団樂
- ・民泊家庭とのディスカッション
- ・阿波おどり練習
- ・入浴・就寝

③集落フィールドワーク



フィールドワーク ※地元高校生とのフィールドワークも検討可能
テーマに沿ったフィールドワークと体験。民家 (受入れ家庭) と共に、世界農業遺産の地の、産直施設や加工所などをフィールドワークなど。集落の産業構造、食や文化を守る取り組みを学びます。
世界農業遺産 傾斜地農耕システム (コエゴロづくり) など体験

④パネルディスカッション



そらの郷「パネルディスカッション」(約60分)
・各班の代表と、地域とのディスカッション

⑤事後学習



- ・振り返り、まとめ、共有。
- ・自らのエンカメライフに取り入れる。
- 発表会 そらの郷出席
(例) 後輩に修学旅行の報告・成果発表。PBLの成果が継承され、新たなPBLに挑戦。

国内初ESDの実践現場と言われる理由は、世界初となる独自の実践体験型「PBL (課題解決型学習) プログラムを開発し、本物の暮らしの中でプロジェクトを展開させることにあります。事前学習・テーマ策定、民泊、フィールドワーク・WS、パネルディスカッション、事後学習。「正解の無い問いに挑戦する力」と「サステイナブルマインド」を醸成します。

PBLプログラム実施によるSDG×推進



PBL×STEAMプログラムとは？

社会に開かれた教育

そらの郷は、ローカルSDGsの実践現場として、ESD（Education for Sustainable Development）推進拠点に登録されています。

ESD人材育成を図る『PBL（課題解決型学習）×STEAMプログラム』は、本物の暮らし、コミュニティの中で、地域住民と共にプロジェクトを展開させるものです。

STEAM教育の手法で、個々の能力を引き出し、様々な実践体験から、あらたな課題・複数の答えを模索します。（事前学習、民泊、フィールドワーク・WS、パネルディスカッション、事後学習。オーダーメイドで、カリキュラムマネジメントをいたします。）

本プログラムは、SDGs教育への活用が好ましく、ベネフィットは「正解の無い不確実に挑戦する力」や「サステイナブルマインド」の習得などが挙げられます。

そらの郷は、未来社会「Society 5.0」を見据え、革新技术を制御し、グローバルに活躍する「未来を変える若者」の育成を目指しています。

地域の魅力 (セールスポイント)

①世界農業遺産 認定地域

～傾斜地の伝統農法・暮らし～



②世界有数のアクティビティ

ラフティング世界選手権2017開催
WWAウエイクボード世界選手権2018開催



③食と農の景勝地 認定地域

農水省が認定し「Savor Japan」ブランドで
魅力を世界に発信する地域



④観光圏認定地域 にし阿波

日本版DMO法人認定組織 その郷
魅力ある観光地域づくりを推進



⑤世界に誇る日本の伝統芸能

～阿波おどり体験～
再会を誓い門出を祝うフィナーレ



⑥ESDネットワーク 地域拠点

修学旅行でローカルSDGs達成をテーマとした
PBL×STEAMプログラムを実施
地元住民・行政・生徒と課題解決に取り組むプログラム。
SDGsネイティブのESD人材を育成。新しい社会の担い手である
次世代・女性のエンパワーメントの育成



地域の課題 (ウイークポイント)

PBLテーマ (例)

①急速な少子高齢化、人口減少による 担い手不足

- ・傾斜地伝統農法の技術継承
- ・山間部の植物多様性の保全
- ・集落のローカルコミュニティ保全

②将来の不確実性からくる、住民の ネガティブ思考

- ・自身の子どもが、田舎を離れ、都会で成功することを願う。
- ・止められない人口減少と産業衰退。
- ・豊かな暮らし、地域の魅力創出が進まない。

③秘境といわれる所以、交通の不便

山々と渓谷で分断された集落形成のため、大型バスの侵入が困難。

④動植物多様な地域であるため、 虫が多い。

イノシシ、シカ、猿などに農地が年中被害を受けている。
受入れ中の生徒に悪さをすることは無いが、道中姿を
現すことはある。



持続可能な社会の創り手となる若者の育成

徳島県

(一社) そらの郷／にし阿波～剣山・吉野川観光圏
徳島県・美馬市・三好市・つるぎ町・東みよし町

【振興計画】

- ・観光 移住 交流による地域活力創生への課題
- ・次世代継承への課題
- ・安全安心の地域社会形成への課題
- ・誰もが幸せな暮らしづくりへの課題
- ・持続可能な地域経済推進への課題

【関係する成果】

関係人口、来訪・宿泊者、SDGs普及・支援、
SDGs地方ビジネス、地方創生・・・etc

集落住民



【側面的な収穫】

暮らしの誇り
先人への感謝
未来への希望
生きがい

【実質的な収穫】

現金収入
パートナーシップ
による課題解決
SDGsを認知



高齢化・過疎化・限界集落・後継者問題・TPP・鳥獣被害・環境保全・・・

共創アクティブラーニング
※集落課題のひとつに
向かい合う

～気づき～

豊かさの概念
幸せの概念
価値の概念
etc



共創による、新たな
SDGsターゲット
4.7、12.8 etc

都会+地方
日本のESD



都会の学生

【側面的な収穫】

生きる知恵
地方への思い
将来の目標
田舎暮らしへの憧れ
エンカル感

【実質的な収穫】

SDGs × PBL研修修了
※進路に有効
SDGsターゲット成果
地方の現状を認知
地方との深い繋がり
急傾斜地農業システムを
認知



地元の学生

【側面的な収穫】

生きる知恵
故郷への誇り
将来の目標
田舎暮らしへの誇り
エンカル感

【実質的な収穫】

SDGs × PBL研修修了
※進路に有効
SDGsターゲット成果
地元を再認識
都会との深い繋がり
急傾斜地農業システムを
再認識

eポートフォリオ活用

素材①

世界農業遺産「傾斜地農耕システム」の農業体験によるブランド力の協創

【世界農業遺産に登録された伝統農法】

にし阿波全域に展開する中山間地の高地性集落は、急傾斜地に展開しており、破砕帯(三波川帯)に産出する石を利用した石積みにより、住居の基礎及び畑の団畑などを展開してきている。その石積み技術は精緻であり、室町期以前のものも現存するなど学術的価値も高い。石積みの技術により、急傾斜地でありながら独自の農業が展開されているが、破砕帯特有の緑色片岩を含む土壌は、溶け出すミネラル成分により石灰を使わずに中和が保たれ、結果として微生物が多量に生息する土壌となっている。



微生物は、植物の根と共生関係を築き、エンドファイト効果として病害虫に強い農産物を栽培できている。



- 斜面の農耕作業を体験する
- 斜面での栽培の知恵、独特な農機具などを農家にヒアリングする

素材③

集落に伝わる習俗～伝統の体験による新たな価値の協創

【生きた民俗資料としての集落文化の保全】

にし阿波の各地の集落には、古くから伝わる習俗が今なお受け継がれている。

集落のコミュニティの中で、祭事や神事を受け持つ役割などが今なお守り継がれており、独特な世界観を醸し出している。



訪日外国人旅行者も多くなった今、日本のspiritualな伝統文化や精神性が、観光資源としても見直されており、また地域の人々の誇りやアイデンティティの根源でもある習俗を継承する意味は大きい。

世界に通用する「もうひとつの日本」がここにあると言っても過言ではない。



- 集落に点在するお堂や祠など自然への感謝の儀礼を体験
- 阿波おどりなどの娯楽で農作業を豊かにしてきた、自然と共生する暮らしの知恵を学ぶ

素材②

雑穀栽培の復活と在来種の保存体験による多様な環境保全の協創

【傾斜地農法の代表、雑穀の復活による地域の再生】

伝統農法としての価値は、在来種などの植物資源及び植物遺伝子の多様性の保全という大きな価値がある。かつて30種類近く栽培されていたシコクビエやタカキビなどの雑穀は、次第に姿を消しつつある。食と農の景勝地事業においても、雑穀を活用した新たな加工食品の開発や、雑穀そのものの付加価値の創造により、地域経済に後継する産業の創出を目指している。雑穀生産組合を再結成して復活につとめる活動や、高度な植物資源の利用を集落で学ぶ。



- タカキビのほうき作りの体験
- 雑穀の収穫作業などの体験を通じ、山の暮らしの知恵を学ぶ



素材④

集落における空き家・廃校利活用による新たな6次産業ポイントの協創

【空き家活用、廃校利用など集落の挑戦】

集落ごとに状況は変わるが、空き家を利活用して交流拠点や、ゲストハウスの運営、農家レストランなどの地域ビジネスの創出にチャレンジしている。単に、モノを販売するのではなく、交流を前提とした付加価値を販売するポイント(場所)を創造し、消費者が現地を訪れて消費する「交流地消」の新しい流通を目指している。交流観光、コミュニケーションツーリズムの展開で農業の産業構造の転換による付加価値を売る挑戦である。



- 集落形成の歴史や習俗・文化などをヒアリング
- 集落で地域づくりに活躍する地域人との交流など。



テーマ素材①

持続可能な 世界農業遺産「傾斜地農耕システム」を協創しよう！

□既存の取組み

【世界目標：2.5 遺伝子多様性の維持 11.4世界文化遺産保護・保全 15.4 山地生態系の保全】

◎パートナーシップによる新たな取組み

【世界目標：4.7 ESD と 持続可能なライフスタイルの推進 17.6 科学技術イノベーション】 他

そらの郷(山間部)では、段々畑のような水平面ではなく、傾斜地のまま耕す農法が継承されてきました。傾斜地では風雨などにより土壌流出が起こります。そのため、**コエグロで干したカヤを畑の畝の間に敷き詰めて**流出を最小限に食い止めたり、等高線に沿って畝立てしたり、**サラエと呼ばれる伝統農具でツチアゲ**をするなどして土壌を守ってきました。コエグロとは、秋に収穫したカヤを束ねて円錐形に積み上げたもので、土壌流出を防ぐほか、春には土を育てる肥料として使われており、傾斜地農耕のシンボリック的存在でもあります。土地に負担をかけない自然循環型の農耕は、千年以上の太古の昔より先人から継承されてきました。

また、水田を作ることができない急傾斜地は米作りに適さないので、ソバ、アワ、タカキビ、コキビなどの雑穀や伝統野菜、山菜といった少量多品目の作物が栽培されてきました。この地域の作物は先祖より大切に採取・保存されてきた在来種で、貴重な遺伝資源の宝庫です。

- ①特徴的な傾斜地農耕作業「ツチアゲ」「コエグロづくり」「カヤ蒔き」を体験する
- ②斜面での栽培の知恵、独特な農機具の必要性、生い立ちなどを農家からヒアリングする
- ③集会所にて、集落壽民と課題に向かい合い、未来のあるべき姿を創造し、模造紙・白地図にまとめる

- ◆所要時間：「①②3時間」+「③振り返り～まとめ2時間 ※車座意見交換」
- ◆設定人数：10～40人/集落
- ◆販売価格：〇〇〇〇円/人税別
- ◆予約先：(一社)そらの郷 教育旅行 TEL 0883-76-0713 / FAX 0883-72-0753
メール sora@cn05.awaikeda.net

- ◆価格に含まれるもの：体験代、会場使用料、お茶・おやつ代
- ◆予約締切：出発日の60営業日前まで
- ◆取消料：出発日の前日17:00まで無料。前日17:00以降50%。無連絡・不参加100%。



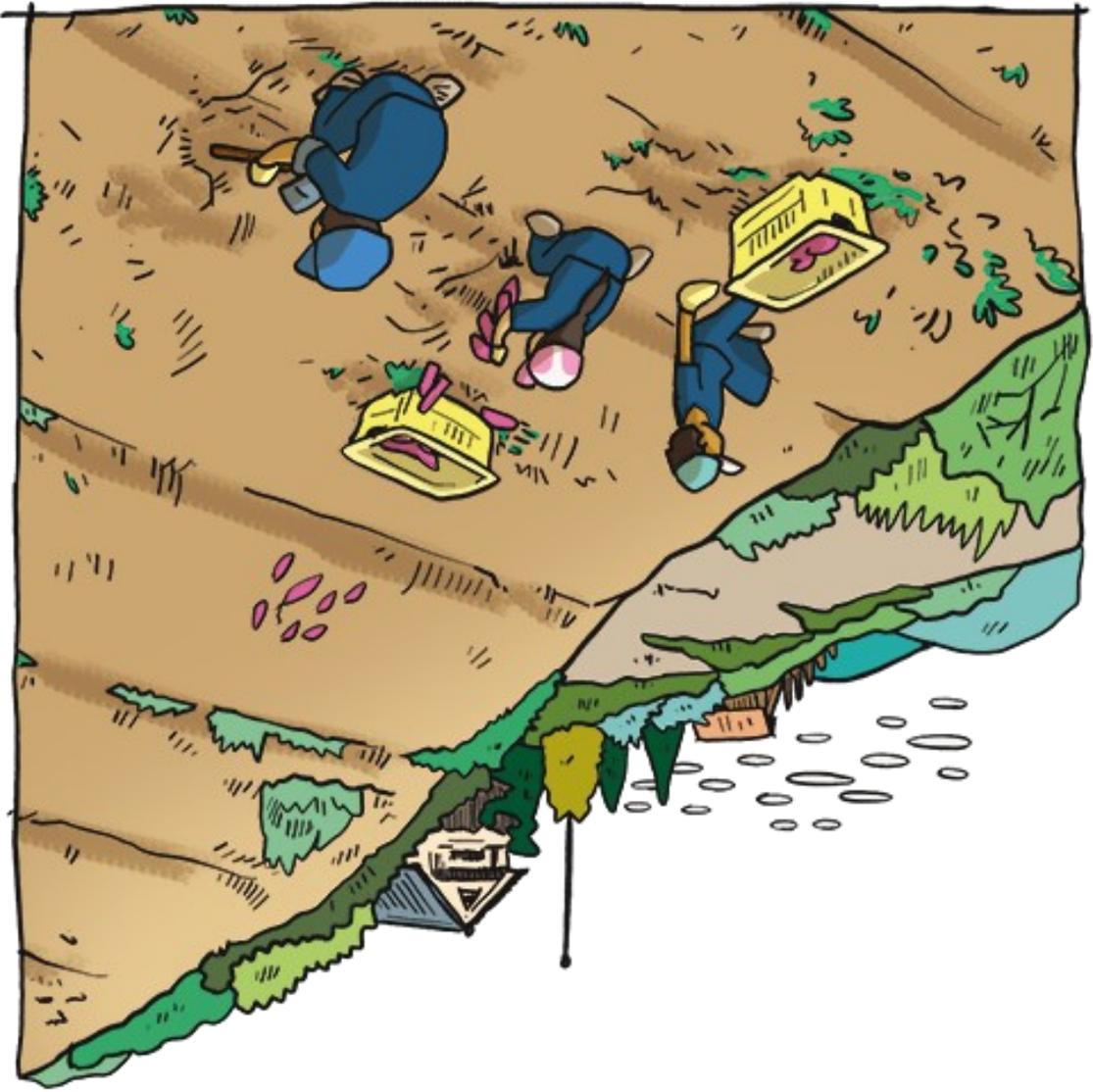
ツチアゲ体験



コエグロづくり体験



カヤ蒔き体験



千年のかくれんぼ

その郷は、ESD拠点に登録されており、教育現場としてSDGsを推進しています。
Education for sustainable development

その郷 *Sora no ato*
山里物語 *Yamayata story*

名称 一般社団法人その郷
所在地 〒778-0005 徳島県三好市池田町シマ995番地1
代表者 理事長 藤田 元治 (美馬市市長)
TEL/Fax 0883-76-0713 / 0883-72-0753

旅行業登録番号 徳島県知事登録旅行業第2-148号